

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

群馬県

学校名

明和町立明和東小学校

人権課題

子ども

対象学年・  
取り扱った教科等

4年・道徳

時数等 1時間

目標・人権教育のねらい

個性や違いを認め合い、互いに尊重し合う態度を育てる。  
主人公が審判としてどう変化したのかを考えることを通して、相手によって態度を変えないで接することの大切さに気づき、誰に対しても分け隔てなく接しようとする判断力を育てる。

実施した内容

- ・公平、公正に関する児童の考え方を知るために、アンケートを行った。
- ・道徳教材「良太のはんだん」を読み、主人公が審判としてどう変化したのかを考えた。
- ・親友だからという理由で味方をしてしまった主人公の葛藤に焦点を当て、「相手によって態度を変えないで接することの大切さ」について考えた。

工夫した点

- (指導上の工夫)
- ・公正、公平について自分達のクラスに課題があることを理解し、自分事として考えることができるようにするために、事前アンケートを行った。
  - ・教材文の内容が理解しやすくするために、登場人物の関係性を絵で黒板に示した。
  - ・児童が自分事として考えることができるように、「親友の味方をしなくて良かったのか。」や「自分が主人公だったらどうするか。」と揺さぶりをかける問い返しを行った。

## 令和5年度 人権教育研究推進事業 &lt;人権教育研究指定校事業&gt;

他教科との  
関連

- ・学級活動（給食の時間）に児童の理解も得られるように説明しながら、公平なおかわりの仕方を実践している。
- ・修学旅行の際、3年生との班行動から、相手のことを考えてリーダーシップを発揮して行動できるようにした。

## 事業成果

知識的側面 「自分も友だちも同じように大切な存在であることを理解している」  
「自分と考え方や感じ方が違う人がいた時どう思うか」という質問に「とてもいいと思う」と答えた割合は5月42.3%から11月57.7%に上昇、「少しいいと思う」と答えた児童と合わせると、11月は96.2%の児童が考え方や感じ方が違うことに肯定的であることがわかる。

価値・態度的側面 「友だちのよさに気づいている」  
友達から言われて嬉しかった言葉を、すべての児童がカードに書くことができ、自分も生活の中で「ふわふわ言葉」を進んで使っていこうとする意欲を高められた。

技能的側面 「友だちの話をしっかり聞いて、自分の意見も伝えている」  
「自分の考えを話したり発表したりできますか」という質問に、「できる」「どちらかといえばできる」と答えた割合は、5月80.8%から11月92.3%に上昇している。このことから、自分の考えに自信をもって伝えることができるようになったことが分かる。

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

群馬県

学校名

明和町立明和東小学校

人権課題

高齢者

対象学年・  
取り扱った教科等5年・総合的な  
学習の時間

時数等

16時間

目標・人権教育のねらい

高齢化社会の現状と課題を理解するとともに、高齢者への尊敬の念や感謝の心を育てる。  
高齢者と共に、互いによりよく生きていこうとする態度を育てる。

実施した内容

- ・これまでの高齢者との関わりについて考える。（2時間）
- ・高齢者が抱えている問題でどのようなものがあるか本やインターネットを利用して調べる。（5時間）
- ・認知症出前講座や高齢者疑似体験を行い、高齢者に対する理解を深める。（3時間）
- ・調べ学習や体験学習を通して学んだことを、スライドにまとめ交流する。（6時間）

工夫した点

(指導上の工夫)

- ・高齢者のことに関心をもつことができるように、身の回りの家族や親戚での出来事について想起するように促し、自分が調べたいテーマを決めることができるようにした。

(地域や関係機関との連携)

- ・町役場の介護福祉課が行っている「認知症出前講座」を実施した。担当者に町の実情をふまえた説明や、高齢者の方の悩みを伝えていただいた。

## 令和5年度 人権教育研究推進事業 &lt;人権教育研究指定校事業&gt;

他教科との  
関連

道徳科にて、家族愛、家庭生活の充実について学習した。その際には、総合的な学習の時間での指導内容とのつながりを意識したり、身近な高齢者との関わりを振り返ったりするよう促した。

## 事業成果

知識的側面 「高齢者の現状や人権上の課題を理解している」  
認知症について、言葉としては聞いたことがあっても、詳しく知る機会はほとんどなかった。今回の学習を通して、「認知症の種類や具体的な症状が分かった」と、学習後のワークシートに記入する児童が多くいた。

価値・態度的側面 「高齢者の大変さが分かり、やさしく接することの大切さに気づいている」  
学習後のワークシートには、家族や身近な人が認知症になったら、「寄りそいたい」「その人ができることを応援したい」という記述が見られた。自分ができる方法で関わったり理解したりしようとする意識が高まった。

技能的側面 「高齢者と積極的にコミュニケーションをとり、親切にしようとしている」  
「お年寄りと話をしたり関わったりすることができますか」という質問に「できる」「どちらかといえばできる」と答えた割合は、5月76.0%から11月87.0%に上昇している。また、児童の91.3%が、自分の祖父母や地域のお年寄りとの関わりがあると答えている。(11月)このことから、一連の学習を通して高齢者との関わり方が分かり、実際に自分の祖父母を中心とした高齢者との関わりをもつことができている児童が多いことが分かる。

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

群馬県

学校名

明和町立明和東小学校

人権課題

障害者

対象学年・  
取り扱った教科等5年・総合的な  
学習の時間

時数等

16時間

目標・人権教育のねらい

障害のある人たちへの理解を深め、互いに認め合う気持ちをもって接する態度を育てる。  
障害の有無に関わらず、相手を尊重しながら共に生きていこうとする心情を育てる。

実施した内容

- ・これまでの障害者との関わりについて考える。（3時間）
- ・障害者が抱えている問題やその支援についてテーマを決めて、本やインターネットで調べる。（6時間）
- ・車椅子体験を行い、障害のある人への理解を深める。（1時間）
- ・調べ学習をしたことをスライドにまとめ、発表し交流する。（6時間）

工夫した点

(指導上の工夫)

- ・実際に町で見かける障害を抱える人への支援や建物、町づくりについて考えることで身近な問題として取り組むことができたようにした。

(地域や関係機関との連携)

- ・近隣大学が行う体験学習に申し込み授業を実施した。車椅子体験学習では、体育館で車椅子のコースをつくり、自走する難しさや、乗っているときの不安などを体験することができた。

## 令和5年度 人権教育研究推進事業 &lt;人権教育研究指定校事業&gt;

他教科との  
関連

国語科の学習で、「みんなが過ごしやすい町へ」を学習した。バリアフリーな環境、みんなが過ごしやすい工夫について考え、意見文を書いた。その際、総合的な学習の時間で学んだ内容を振り返るよう促した。

## 事業成果

知識的側面 「障害者の現状や人権上の課題を理解している」  
学習前は、「普段の生活での身体の不自由な人と関わりがある」と答えた児童は1割ほどしかなく、「障害者」という言葉を聞いたことはあるが詳しくは知らないという児童が多くいた。学習後のまとめには、障がいの種類や生活で困難なことについて、また、生活を支えるために様々な道具があることなどがわかったと、ほとんどの児童が記述することができていた。

価値・態度的側面 「障害者の立場を理解し、どう接すればよいか考えている」  
学習後のワークシートには、「自分にできることをしたい」「大変そうだというだけでなく助けたい」という記述が見られた。自分ができる方法で関わったり理解したりし、共に助け合おうとする意識が高まった。

技能的側面 「障害者の立場を理解し、身の回りのバリアフリーについて考えている」  
実際の車椅子体験から操作の難しさや段差などの不便な環境に気付くことができ、自らの生活に置き換えて、バリアフリーについて考えることができた。

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

群馬県

学校名

明和町立明和東小学校

人権課題

外国人

対象学年・  
取り扱った教科等

2年・道徳

時数等 1時間

目標・人権教育のねらい

日本と異なる文化について理解・尊重し、他の国の人たちと進んで親しくしようとする態度を育てる。  
外国人の友達が、「だまし船」を折った場面の主人公の気持ちを、ワークシートにセリフとして書き、役割演技をすることで、お互いの文化の違いに気付き、他国の文化に親しもうという実践意欲と態度を育てる。

実施した内容

- ・「だまし船」を作った友達に、どのような言葉をかけてあげるか考え、主人公になりきって、ワークシートに書く。その後、ワークシートを写真に撮って送り、ロイロノートで各自の意見を共有する。
- ・めあてを振り返り、外国の人々とは、どうやったらなかよくなれるか、自分たちができるところを具体的に考える。

工夫した点

- (指導上の工夫)
- ・外国人の友達になぜその言葉をかけたのかについての理由を考え、自分事として意見をもつことができるようにするために、主人公になりきった役割演技を取り入れた。
  - ・クラスに在籍する外国籍の児童に配慮しながら、外国の人々とどうやってなかよくできるのか、自分だったらどう行動するかについて、実際に外国の人々と会う機会が無くてもできることがあることに気づくことができるように、問いかけた。

## 令和5年度 人権教育研究推進事業 &lt;人権教育研究指定校事業&gt;

他教科との  
関連

- ・音楽科にて、他国のあいさつの言葉がたくさん出てくる「メッセージ」という曲を学習した。その際に、本クラスの外国籍の児童が、自国のあいさつをクラスの友だちに教えたり、その国のあいさつを入れて歌ったりした。
- ・外国語活動で、ALTの出身国の話や家族のことを聞くことで、文化や風習の違いを理解し、外国の生活に興味をもつことができた。

## 事業成果

知識的側面 「外国との文化や生活の違いや共通点について理解している」  
学習前は、日本以外の外国の国名についていくつか知っているという児童が多くいたが、詳しい文化や言葉についてはあまり知らなかった。関連教科を含む今回の学習を通して、日本語以外でのあいさつの言い方や生活の違いについて知ることができた。

価値・態度的側面 「外国の文化や生活に関心をもって親しもうとしている」  
「外国の人たちとなかよくなりたと思いますか」という質問に、「思う」「どちらかといえば思う」と答えた割合は、5月85.7%から11月87.0%に上昇している。また、授業後のワークシートには、「もっと日本のことを教えてあげたい」という記述が多く、このことから一連の学習を通して、積極的に外国の人と関わろうとする気持ちが高まっていることが分かる。

技能的側面 「外国人の立場や気持ちを理解し、互いの違いを認めようとしている」  
学級の外国籍の児童が、自分の国のあいさつや生活について話したことを、興味をもって聞いたり尋ねたりしていた。給食で様々な国のメニューが出た時に、「日本とちがうね」と話しながら関心をもって食べる姿が見られた。

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

群馬県

学校名

明和町立明和東小学校

人権課題

障害者

対象学年・  
取り扱った教科等5年・総合的な  
学習の時間

時数等

16時間

目標・人権教育のねらい

障害のある人たちへの理解を深め、互いに認め合う気持ちをもって接する態度を育てる。  
障害の有無に関わらず、相手を尊重しながら共に生きていこうとする心情を育てる。

実施した内容

- ・これまでの障害者との関わりについて考える。（3時間）
- ・障害者が抱えている問題やその支援についてテーマを決めて、本やインターネットで調べる。（6時間）
- ・車椅子体験を行い、障害のある人への理解を深める。（1時間）
- ・調べ学習をしたことをスライドにまとめ、発表し交流する。（6時間）

工夫した点

(指導上の工夫)

- ・実際に町で見かける障害を抱える人への支援や建物、町づくりについて考えることで身近な問題として取り組むことができるようにした。

(地域や関係機関との連携)

- ・近隣大学が行う体験学習に申し込み授業を実施した。車椅子体験学習では、体育館で車椅子のコースをつくり、自走する難しさや、乗っているときの不安などを体験することができた。

## 令和5年度 人権教育研究推進事業 &lt;人権教育研究指定校事業&gt;

他教科との  
関連

国語科の学習で、「みんなが過ごしやすい町へ」を学習した。バリアフリーな環境、みんなが過ごしやすい工夫について考え、意見文を書いた。その際、総合的な学習の時間で学んだ内容を振り返るよう促した。

## 事業成果

知識的側面 「障害者の現状や人権上の課題を理解している」  
学習前は、「普段の生活での身体の不自由な人と関わりがある」と答えた児童は1割ほどしかなく、「障害者」という言葉を聞いたことはあるが詳しくは知らないという児童が多くいた。学習後のまとめには、障がいの種類や生活で困難なことについて、また、生活を支えるために様々な道具があることなどがわかったと、ほとんどの児童が記述することができていた。

価値・態度的側面 「障害者の立場を理解し、どう接すればよいか考えている」  
学習後のワークシートには、「自分にできることをしたい」「大変そうだというだけでなく助けたい」という記述が見られた。自分ができる方法で関わったり理解したりし、共に助け合おうとする意識が高まった。

技能的側面 「障害者の立場を理解し、身の回りのバリアフリーについて考えている」  
実際の車椅子体験から操作の難しさや段差などの不便な環境に気付くことができ、自らの生活に置き換えて、バリアフリーについて考えることができた。

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・  
指定都市名

群馬県

学校名

明和町立明和東小学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・  
取り扱った教科等

6年・道徳

時数等 1時間

目標・人権教育のねらい

インターネット上での人権問題について知り、情報モラルについて正しく理解する。友だちとの間で心が揺れる主人公について多面的・多角的に考える活動を通して、友だちの気持ちを考えて行動することの大事さに気づき、相手の立場に立って考え、行動しようとする実践意欲と態度を育てる。

実施した内容

- ・ 修学旅行の本番で、相手の立場に立った行動がとれたかどうかを振り返った。
- ・ 教材文を読み、登場人物の思いや行動の意味などを、個人や班、全体で考え、共有した。
- ・ 道徳的価値に対する多様な考えを知り、学習のめあて「相手の立場に立った友達関係を築くには、どうしたらいいか考えよう。」について、再度考えた。
- ・ 振り返りを行い、本時で学んだことや自分自身の変化を確認した。

工夫した点

- (指導上の工夫)
- ・ グループから外された友達の返事が遅くなった理由は教科書に出てこないが、他者の行動の裏には様々な事情があることへの気付くことができるよう、児童に問いかけた。
  - ・ 主人公の心の揺れについて、思考ツール（Yチャート）を用いて考えたり、班で意見や理由を伝え合ったりするように、児童に促した。
  - ・ 児童の本音を引き出せるように、個に応じて補助発問を行った。

# 令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

## 他教科との 関連

- ・総合的な学習の時間や学級活動の中で情報モラル教育を行い、人権を尊重する心を育てた。その際、道徳科の学習内容とのつながりを意識し、そこで学んだ内容を振り返りながら、総合的な学習の時間や学級活動の指導を行った。
- ・警察署の方を招いて情報モラル講習会を行い、保護者にも参加してもらった。

## 事業成果

知識的側面 「情報モラルやインターネット上で起こりうる人権侵害やトラブルについて理解している」

調べ学習の際には、出典を明記するなど著作権に留意することや、他人の写真や動画を撮影する際に相手に確認する必要があることなどが分かった。

価値・態度的側面 「相手のことを考え、マナーやルールを守ってインターネットを利用しようとしている」

インターネットを利用するときのルールを家庭で決めているという児童は79.2%で、節度を守って利用しようとしていることが分かった。

技能的側面 「インターネットを利用するときには、マナーやルールを守り、他人を傷つけずに正しく利用している」

「言葉づかいや友達への話し方をどうしていますか」という質問に、「いつも優しく気をつけている」と答えた割合は、5月47.8%から11月58.3%に上昇している。「たまに気をつけている」と答えた児童と合わせると、11月は91.6%の児童が日頃の言葉づかいにおいても、相手の気持ちを考えて接しようとしていることが分かった。